# 「私たちを支えるのは誰かの税金」

本山　遥

私は小学生の頃、税金というものにあまりいいイメージを持っていなかった。理由は小学生の時にお菓子を買おうとした時の思い出である。消費税のことを考えておらず、レジで、持っていた金額では足りず、泣く泣く諦めたことがあったからだ。そこから税金には嫌な思いしかなかった。そのあと母とそのことについて話した。すると母は、大人になるともっとたくさんの税金を払わなければならなくなると言った後に、それでも図書館に行って無料で本が借りられるのも、毎年教科書がもらえて学校で勉強ができるのも、全て税金のおかげなのだと教えてくれた。その話を聞いた時に、少しだけ税金のイメージが変わった。私は図書館で本を読むのが大好きだし、勉強をして知識をつけるたびに、母に自慢げに話していたからだ。その出来事から、私は消費税について考えるようになった。もしかしたら、自分の払った税金が私や友達の教科書となって返ってくるかもしれない。図書館で新しい本を買うためのお金になるかもしれないと思うようになった。すると、自分がほんの数円でも税金を払い、社会のために役に立つことをしていると誇らしくなった。

しかし中学生になった今、少し悲しくなることがある。私たちは学習でタブレットを使うことが多い。そして同級生の中には、タブレットを壊してしまう人もいる。過失は誰にでもあることだから、一度や二度なら仕方ないかもしれない。しかし何度も何度も壊れたタブレットを修理に出している人がいた。その人たちの中にはあまり反省していないように見える人がいる。その理由はタブレットの修理費を自分で払っていないからではないかと私は考えた。調べてみるとタブレットの修理代は、原則として区が税金から払うようになっていた。そのために、タブレットが雑に扱われているところを見ると、また壊れて税金から修理代が出るかもしれないと考え、小学生の出来事を思い出してしまう。自分が食べたかったお菓子を我慢したように、きっと他にもいろいろなことを我慢しながら一生懸命頑張って、税金を払っている人がたくさんいると思う。そんな大切な税金が使われているものを、躊躇も反省もなく粗末に使っている人を見ると少し悲しくなってしまう。

私たちの払っている税金はほんのわずかで納税者とは言えないかもしれない。でもその小さな税金が集まって私たちの生活を支えてくれているのだ。だからこそ、その税金の重さを理解して大切にするべきだと私は思う。図書館の本を読むときには水でぬれたり、破れたり、汚したりすることのないように大切に扱おうと思う。ほかにもタブレットや校舎を大切に扱って、未来の後輩たちが気持ちよく勉強ができるようにしたい。そしてその後輩たちがまた綺麗なままで次の後輩たちにつなげたいと思ってくれるようにしたい。